

一般社団法人 薬学教育評価機構  
平成 26 年度 定時社員総会 議事録

日 時 平成 26 年 6 月 26 日 (木) 15 : 00 ~ 16 : 45

場 所 日本薬学会長井記念館ホール

出席者

社員 : (出席) 77 社員代表者 (74 大学 + 3 団体、うち 22 名代理人) (資料 1)

役員 : (理事) 井上圭三、寺尾允男 (監事) 小池啓三郎、村瀬清志

来賓 : 文部科学省高等教育局医学教育課 丸岡 充 薬学教育専門官

厚生労働省医薬食品局総務課 中井清人 薬事企画官

事務局 : 戸部 徹、小林静子、母壁美由紀、久松絵美子

配布資料

- 資料 1 出席者名簿
  - 資料 2 平成 25 年度事業報告書・決算報告書・監査報告書
  - 資料 3 平成 26 年度事業計画 (案) および収支予算 (案)
  - 資料 4 役員規則
  - 資料 5 平成 25 年度薬学教育プログラム評価結果
  - 資料 6 総合評価評議会および関連委員会 委員一覧
  - 資料 7 評価委員会正・副委員長と事務局との話し合い
  - 資料 8 平成 26 年度評価予定表
  - 資料 9 平成 28 年度本評価対象大学の希望申出状況
  - 資料 10 薬学教育評価 適合認定マークの使用に関する規則  
適合認定マーク使用申請書
- (参考) 平成 25 年度「薬学教育 (6 年制) 評価」結果報告書

## 1. 理事長挨拶

薬学教育プログラムに対する第三者評価は、日本薬学会で検討を始めてから 10 年近く経過し、昨年度に初めて、3 大学の本評価を実施した。また、本年度は 10 大学の評価が開始され、順調に進んでいる。平成 27 年度からの「新コアカリ」の実施や昨年度の国家試験が難しくなっていることなどが評価に影響することが考えられるが、本機構は、公平な評価を行うことを基本姿勢として、実施していく所存である。社員の皆様のご協力をお願いしたいと挨拶した。

## 2. 来賓挨拶

文部科学省高等教育局医学教育課 丸岡 充 薬学教育専門官 :

今年の 3 月に 3 大学の第三者評価結果が公表され、評価が正式に稼働し始めた。各大学にとっ

ては7年に一度の評価であるが、評価の基本は各大学の自己点検評価である。きちんとPDCAサイクルを回し、内部質保証システムを構築することが重要である。すなわち、教育プログラムの目標を掲げて、現状分析し、問題点の対応策を練り、それが上手く行われているかを点検することが必要である。大学自身の自己点検評価の重要性は中教審でも言われており、大学にしっかりやって頂くことが必要であるので、よろしくお願ひしたいと挨拶した。

厚生労働省医薬食品局総務課 中井清人 薬事企画官：

今後の国の政策として重要視されているものに地域包括的ケアシステムの構築がある。それは、①外来医療も含む在宅医療、②健康食品を含むセルフ・メディケーション、③何かあったら相談に行けるファーストアクセスが相当する。これらは、地域の薬局薬剤師に対するもので、病院薬剤師にはチーム医療への参画が必須である。これには、薬局薬剤師との連携の問題も含まれる。これらの問題について理解を示し、教育を進めてもらいたい。また、薬学教育においては、学生数の多さなどクリティカルなすぐには解決できない問題点がある、と挨拶した。

### 3. 出席状況及び定足数の確認

(資料1、戸部事務局長)

本日は、総数77社員の全代表(うち22名が代理人)が出席している。本機構定款第13条によると「社員総会は、社員の過半数出席により開会する」とあるので、本総会は成立すると報告した。

### 4. 議事録署名人指名

(戸部事務局長)

議事録署名人として、理事長から以下の2名が指名され、異議なく承認された。

新潟薬科大学薬学部長 杉原多公通 先生

熊本大学薬学部長 大塚 雅巳 先生

### 5. 事務報告

本日の配布資料1~10の確認が行われた。資料1 No.34 富山大学薬学部長は細谷健一に変更となった。

### 6. 議 題：( )に該当資料、説明者名を記す。

#### 承認事項

#### 1) 平成25年度事業報告および決算報告について

(資料2、小林事務局長補佐)

#### 【平成25年度事業報告の概要】

#### (1) 組織体制関連(社員総会、理事会、運営委員会関連)

① 平成24年度事業報告・決算報告

② 平成25年度事業計画案および収支予算案

③ 平成25年度役員改選に伴う役員候補者の理事会推薦について（理事会承認）

④ 平成25年度新役員の決定および代表理事の決定

理事（平成25年6月～27年度6月まで）

大学：井上圭三（理事長）、市川 厚、乾 賢一、奥 直人、桐野 豊、  
杉浦幸雄、西島正弘

団体：北田光一、児玉 孝、柴崎正勝

有識者：寺尾允男、豊島 聡、樋口 駿

監事：小池啓三郎、村瀬清志

⑤ 平成26年度事業計画案および収支予算案について

(2) 評価事業に関連する取組みについて

<総合評価評議会>

① 評価委員の増員について

平成26年度以降、第三者評価対象校が、現在の3から10校・13校と増えるので、現委員数16名を21名とすることが承諾された。

② 理事長から下記の3大学の薬学教育プログラムの第三者評価を委託されたので、受託した。

岡山大学          日本薬科大学          福山大学

③ 議長の選出

平成26、27年度の「総合評価評議会」の議長は、評価事業基本規則第10条第1項により互選で、太田 茂氏(広島大学)が選出された。

④ 平成26、27年度評価関連委員会委員の選任について

評価事業基本規則第21条に基づき選出された委員について審議し、異議なく選出した候補者の選任が認められた。(資料6参照)

⑤ 平成25年度「評価報告書」の確定

岡山大学薬学部薬学科、日本薬科大学薬学部薬学科、福山大学薬学部薬学科の最終「評価報告書」を3月3日に決定し、理事長に報告するとともに3大学に送付した。

⑥ 異議申立て

3月25日付で日本薬科大学から異議申立てが理事長宛に提出された。

<評価委員会・評価チーム会議>

岡山大学、日本薬科大学、福山大学の本評価を以下のプロセスで実施した。

- ① 1チーム5名とした3チームを編成し、主査・副査を決め、説明会を実施  
3大学から提出された「自己点検・評価書」に基づき、6月から評価実施員による書面調査開始
  - ② 書面調査後にチーム会議を2回開催し、「評価チーム報告書案」を作成し、3大学に送付
  - ③ 訪問調査（2泊3日）を行い、チーム会議で「評価チーム報告書」を決定し、評価委員会に提出
  - ④ 評価委員会 計6回開催し、3大学の評価における共通認識が必要な問題点の検討を行った。
  - ⑤ 平成25年度本評価「評価報告書（委員長案）」の検討
  - ⑥ 幹事会にて作成した3大学の「評価報告書（委員長案）」を検討し、「評価報告書（委員会案）」を作成、3大学へ送付し、意見申立てを受理
  - ⑦ 意見申立ての採否の検討と大学への「回答書」を作成
  - ⑧ 意見申立書に対する回答書の決定、大学に送付
  - ⑨ 評価報告書（原案）を作成し、総合評価評議会に提出
- 初回の評価結果は、文科省記者クラブで記者会見を行うと共に、本機構のホームページに3大学の「評価報告書」を公表した。

### （3）評価者研修会について

- ① 第5回（平成25年度第1回）評価者研修会が実施された。

日程：平成25年8月31日、9月1日

場所：クロスウェーブ府中

参加者：評価実施員候補者36名

- ② 第6回（平成25年度第2回）評価者研修会が実施された。

日程：平成26年1月11日、12日

場所：クロスウェーブ府中

参加者：評価実施員候補者43名

- ③ 評価者研修のための資料の作成

### （4）評価管理システムソフトの構築

本評価に向けて、評価管理システムを構築し、本評価に使用した。

### （5）平成26年度版「薬学教育評価ハンドブック」の作成

### （6）学会報告

- ① 日本医学教育学会公開シンポジウム

2013年7月28日 於：千葉大学

② 日本獣医学会学術集会

2013年9月22日 於：岐阜大学

【平成25年度決算報告書の概略】

説明は、本機構が契約している新星パートナーズ会計事務所代表井河伸朗氏に依頼した。

(1) 経常収益

会費収入	61,700,000円	
	(会費80万円×77正会員+賛助会員10万円)	
事業収益	9,450,000	(消費税5%を含む)
雑収益	11,960	(定期預金利息分)
経常収益計	71,161,960	

(2) 経常費用

事業費	33,761,770
管理費	26,945,127
経常費用計	60,706,897
当期一般正味財産増減額	10,455,063
一般正味財産期首残高	45,283,047
一般正味財産期末残高	55,738,110円

平成25年度は、10,455,063円の黒字になった。その理由は、①将来事務局長となる人材を採用できなかったこと、②日程調整が困難で、会議の出席者が諸委員会定数の0.6倍であったことなどが、予算を消化できなかった理由であると説明した。本評価関連費は、評価手数料9,450,000円に対して、14,848,209円掛っており、約540万円の赤字になった。

【監査報告】

平成26年5月28日に行った平成25年度事業報告および決算報告に関する監査結果について、小池啓三郎監事より、平成25年度の本機構の業務実施状況および財政状況は正しく行われたと報告があった。審議の結果、平成25年度事業報告および決算報告は、異議なく承認された。

2) 平成26年度事業計画(案)および収支予算(案)について(資料3、小林事務局長補佐)

【平成26年度事業計画(案)の概要】

(1) 機構運営関連

- ① 例年通りの社員総会、理事会、運営委員会等を開催
- (2) 評価事業関連
  - ① 10 大学（岐阜薬科大学、九州保健福祉大学、京都大学、京都薬科大学、就実大学、昭和大学、千葉科学大学、同志社女子大学、東邦大学、徳島文理大学）の第三者評価開始
  - ② 評価者研修会を開催し、50 名程度の評価実施員候補者の養成を図る。
  - ③ 「薬学教育評価ハンドブックー平成 27 年度版ー」を作成
  - ④ 評価管理システムの検証
  - ⑤ 本評価実施後の課題検討およびコアカリキュラム改訂後の対応のため、基準・要綱検討委員会および評価委員会を開催
  - ⑥ 国際対応委員会の開催

**【平成 26 年度収支予算（案）の概略】**

(1) 収入の部	
会費収入	61,700,000 円 (会費 80 万円×77 社員+賛助会費 10 万円)
評価手数料	32,400,000 (324 万円含 8%消費税×10 大学)
合計	94,100,000
(2) 支出の部	
事業費	62,184,900
管理費	29,942,117
支出小計	92,127,017
予備費	2,000,000
支出総額	94,127,017
収支差額	△27,017 円

平成 26 年度事業計画案および収支予算案は異議なく承認された。

本年度は、10 大学評価することが決まっているので、事務局員 1 名の補充を急いで行っている。8 月 1 日に向けて、面接を開始していると説明した。

3) 理事の交代について (資料 4、井上理事長)

6 月 29 日の日本薬剤師会総会で山本信夫氏（現相談役）が新会長に就任することが決まっている。本機構の役員規則第 3 条第 2 項により、日本薬剤師会会長が理事となることが定められている。したがって、本日の機構の社員総会までには山本氏は会長となっていないが、

日本薬剤師会常務理事である永田泰造氏（本機構評価委員）に山本氏が新会長に就任することについて説明を受け、新会長就任後、本機構の理事とすることが異議なく承認された。

## 報告事項

### 4) 平成 25 年度本評価の結果について (資料 5、井上理事長)

資料に基づいて、平成 25 年度実施した 3 大学の第三者評価の結果について説明した。

- (1) 岡山大学薬学部薬学科：総合判定は、「適合」に認定された。認定期間は、2021（平成 33）年 3 月 31 日までとする。但し書きについては、早急に対応し、その状況に関する報告書を機構に提出することが要請された。
- (2) 日本薬科大学薬学部薬学科：総合判定を保留し、評価を継続することとなった。3 年以内に問題点を改善し、再評価を申請しなければならない。
- (3) 福山大学薬学部薬学科：総合判定は、「適合」に認定された。認定期間は、2021（平成 33）年 3 月 31 日までとする。但し書きについては、早急に対応し、その状況に関する報告書を機構に提出することが要請された。

### 5) 任期満了に伴う評価関連委員会の構成員について (資料 6、戸部事務局長)

任期満了に伴う評価関連委員会の構成が決まった。資料の通りであるが、「評価委員会」は 21 名のメンバーの内、首藤英利（アステラス製薬株式会社）、橋本孝志（大学基準協会）、山田勉（立命館大学）、吉田雄三（武庫川女子大学）、吉富博則（福山大学）の 5 名が自己都合等の理由に就任を辞退された。今後 5 名の欠員について議論し、評価委員会が評価に携わる 11 月までには結論を出すことになったと報告した。

### 6) 評価委員会の編成について (資料 7、戸部事務局長)

本年度から評価対象大学が 10 大学に増えるので、評価委員会の運営を速やかに行うために、3 月 24 日に正副委員長と事務局員が話し合いをした。以下について話し合い、評価委員会（平成 26 年 6 月 30 日）に諮ることとしたと報告した。

#### (1) 副委員長の増員について

平成 25 年度の評価を実施した結果、国公立大と私立大の問題点に対する理解度の乖離をなくすために、現行の委員長を含めて国公立大 2 名、私立大副委員長 1 名を、副委員長 1 名増員し、委員長を含め国公立大 2 名、副委員長私立大 2 名とすることが決まった。

基本規則第 23 条により、平田委員長が副委員長として栗原順一評価委員を指名した。

平成 26 年 4 月 1 日以降の評価委員会正・副委員長は以下のとおりである。

委員長：平田收正（阪大）

副委員長：小澤孝一郎（広大）、本間 浩（北里大）、栗原順一（帝京大）

(2) 評価委員会正・副委員長と事務局連絡会の設置

今後4名の正・副委員長と事務局(研究員3~5名を含む)で、スケジュール設定等の評価委員会に諮る種々の原案を作成する。時間の節約のため既存の評価管理システム上にWeb会議およびクラウドシステム(共有ファイル)を新たに設置し、それを利用して随時(月1回くらい)開催し、円滑な運営に努める。

(3) 主査会議の新設

10大学の評価を担当する各主査は、担当大学の評価を行った後に、中項目ごとの問題点を抽出後、一堂に会し、評価委員会委員、事務局を交えた主査会議を開催し、各問題点について議論し、大学間の評価のバランスを図る。

7) アドバイザー制度の導入について

(資料7、戸部事務局長)

橋本・山田評価委員会幹事は、自己都合により評価委員を辞退したいとの申し出があった。機構としては、少なくとも平成26年度は10大学の評価を行うため、議決権を持たない本機構のアドバイザーとして就任して頂くことにしたと報告した。

8) 研究員の増員

(戸部事務局長)

平成26年度は10大学を評価するため自己点検・評価書のチェックを始め、評価チームおよび評価委員会のサポートをするための研究員を1名増員し、計4名とした。

加賀谷けい子氏

共立薬科大学卒(医博)、明治薬大および山梨医科大学での教育経験あり。

9) 平成25年度の評価スケジュール

(資料8、戸部事務局長)

本年度の本評価事業の進捗状況は4月16日までの10大学の「自己点検・評価書」の提出、資料の不足、文章の整合性、理解しにくい表現等を事務局・研究員でチェックし、月末に各大学に返送した。5月23日に「自己点検・評価書」の正本が提出された。5月末日に評価実施員に担当大学の「自己点検・評価書」および関連資料を送付し、書面調査が開始された。現在、評価管理システムに評価所見を記入中である。7月のチーム会議の日程調整は終了、訪問調査は10大学とも10月に実施することが決まった。事業は問題なく進行していると報告した。

10) 平成28年度本評価対象大学の希望申出状況

(資料9、井上理事長)

5月末日までの申し出状況は資料のとおりである。西側私立1大学分を薬科大学・薬学部間で全国薬科大学長・薬学部長会議で抽選したいと考えている。対象大学は14大学である。抽選は、6月27日の全国薬科大学長・薬学部長会議総会で行われると報告した。



11) 傷害総合保険への加入

(戸部事務局長)

本機構の評価にかかわる会議や訪問調査等を本務である大学や病院・薬局とは関係なく有給休暇をとって実施する人が一定の人数いる。この場合、発生する傷害に対する補償を本務である大学・病院・薬局でカバーしないので、傷害保険に加入することにした。

保険会社：損保ジャパン日本興亜保険サービス株式会社

種類：傷害総合保険（個人型）

内容：本人のみ

死亡・後遺障害保険金額 10,000,000 円

入院保険金（日額） 5,000

手術保険金 入院時 50,000

外来時 25,000

通院保険金（日額） 3,000

保険料：平成 26 年度は、275,520 円

12) 認定マークの使用規則・使用申請書について

(資料 10、戸部事務局長)

評価の結果、総合判定が「適合」となった大学に対して、適合認定マークの使用を許可する規則と申請書を作成し、ホームページに掲載したと報告した。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第 19 条第 2 項により、議長及び議事録署名人は記名押印する。

平成 26 年 7 月 8 日

議長 一般社団法人薬学教育評価機構  
理事長 井上圭三 (押印済)

議事録署名人 新潟薬科大学薬学部  
学部長 杉原多公通 (押印済)

議事録署名人 熊本大学薬学部  
学部長 大塚雅巳 (押印済)

議事録作成人 一般社団法人 薬学教育評価機構  
事務局長 戸部 徹 (押印済)